

播磨 まちかどニュース

With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 130



◆配信日 令和8年9月1日◆



今日は、夏休み中に開催されました「親子陶芸教室」の様子をお伝えしましょう。

令和8年7月20日(月)、いなみ野学園の陶芸学科棟で「親子陶芸教室」が開催されました。「作って楽しい親子陶芸教室」が9:30~13:45まで、陶芸教室2棟で行われました。

この行事は、学園と地域みなさんとの交流の場として設けられ、陶芸を通して「ものづくり」の楽しさを体験していただくこと。併せて、親子での触れ合いを深めていただくことをねらいに毎年開催しています。応募者も多く40組限定(親子で80名)の開催です。



初めに、主催者を代表して大西武彦生きがい創造協会業務執行理事兼いなみ野学園副学園長の挨拶がありました。

「どんな形やったら面白いやろなとか、どんな色やったらどうなるかなとか、考えながら親子で陶芸作品を作ってみてください。8月下旬に完成したものが届くのを楽しみに、今から作品作りをがんばってください」と話されました。



今回は大勢の応募者から選ばれた親子が参加され、選漏れされた方もいましたから、見事

選ばれたみなさんは、それだけに楽しみにしての参加となりましたね。

みなさん、とても楽しそうに粘土と格闘しながら、作品作りに取り組んでいました。

今回もお手伝いする指導の先生たちが大勢います。いなみ野学園陶芸学科の学生のみなさんが先生役を務め、補助者として陶芸学科主任・技術指導員さんも指導にあたってくれていました。



午前中は湯呑みと花瓶を、午後からお皿の絵付け体験にも挑戦しました。親子で協力し合いながら、それぞれみなさん一生懸命取り組んでいました。困った時は、

先生たちがすぐに来て、「こうするといいですよ」とアドバイスをしてくれたり、手伝ってくれたりしていました。

お昼1時から絵付けです。お皿や湯呑みに絵を描くのです。スマホからマンガの登場人物の絵を検索して、それを描こうという親子も多かったようです。「今どきやなあ」と感心しながら見ていました。

絵も描け、仕上がった人から、最後、自分の作品を手で写真撮影です。その後、親子にインタビューして感想を聴きました。

Aさん「お母さんに結構手伝ってもらった。お母さんがいてよかった。いい経験ができた。またやってみたい」

B君「絵を塗るのが難しかった。でも90点ぐらい、よかった」

C君「お父さんと話し合って、初めは海を感じ

を絵にしたかったけど、後で森に変えて、花瓶に枝をつけた。いいのができた」



最後に、主催者を代表して陶芸学科の榊原さんにもインタビュー

に应邀してもらいました。

榊原さん「親子陶芸教室は、楽しんでいただくことが第一です。子どものアイデアは大人には到底ついていけない。それだけユニークで自由な発想をします。親御さんも一緒に楽しんでいただけるいい機会。どれも個性あふれる作品が出来てよかった。そして、楽しんでもらえたことが一番嬉しいです」と話されました。

先生からの指導をしっかりと聞きながら、土と格闘しての一日となりました。みなさんとても楽しそうでした。親御さんも、難しそうなところは手助けをして、親子で一緒に楽しんでいる様子がよくわかりました。

今回の「親子陶芸教室」、みなさんとても個性あふれるものができました。土に触れることや粘土をこねるなど、普段はあまり体験しないことを、今日は親子で一緒にやれて、楽しい体験が出来たことが、何より良かったなあと思いました。

ひとときを土に触れて、土と格闘し、そして力を合わせて作り上げた陶芸作品づくり。

そこで一言、「粘土と格闘し その先に生まれる 世界に一つだけの 私の作品」



(ナレーション 大前 小夜子)

これが鉛筆画！？ 世界を驚かせた匠の技



◆配信日 令和8年9月16日◆



みなさん、エンピツだけで描く「鉛筆画」はご存知でしょうか。今回は、鉛筆画家として世界的にも有名な坂本七海男さんを紹介したいと思います。

何より驚くのは、その絵の凄さ。「写真では？」と見間違ふ程に、これが絵なんですから。その緻密さには圧倒されます。

令和8年8月17日(月)の朝、坂本さん宅(東神吉町西井ノ口)を訪れて、直接、ご本人にインタビューをしてみました。部屋にはたくさんの作品が展示されていて、どの作品も見事なものばかり。「これ、鉛筆で描いたの？」と信じられないほど素晴らしい作品ばかりが並んでいました。

MC：鉛筆画を始められたきっかけは何ですか？

坂本さん：初めて薔薇の絵を描いた時、家内が「これお父さんが描いたの？ うまいなあ！」と感心し、褒められ、おだてられ、家内の手のひらに乗せられ、踊らされて・・・それがきっかけです。

MC：本当に見事な作品ですね。写真ではと思うほどですが、目を凝らして見ると写真ではなく絵だとわかります。スゴイの一言で



すね。

世界の巨匠たちと並んで、坂本さんご自身の作品、「毛ガニ」が掲載された本が出版されたそうだが、どんな本ですか？ 現役の方は坂本さんただ一人。「そうした有名な画家たちと一緒に掲載されていることだけでも驚きです」とご本人も話されました。

坂本さん：国際美術書『A WORLD HISTORY OF ART LIMITED2』と言う本に、私の「毛ガニ」の作品を載せてもらいました。嬉しかったですね。

MC：坂本さんは、サバを描くと青味がかかった絵になるとお聴きしましたが、どのようにして描くのでしょうか？



坂本さん：22本あるエンピツの内、15本ほど使い、10Bなどはほとんど使わない、粉になってしまうので。FやHを重ね塗りして、絵に深みが出てくる。サバのような

青色はFを、また赤い色を出したい時は主にHを使って、それで深みと厚みを出していくんです。

MC：FやHのエンピツで、青や赤が出せるのですね。ところで、坂本さんの作品の中には、マリリン・モンローや三船敏郎など、映画で見るそのままの姿がエンピツで描かれていますね。また、「9・11」のテロの様子は、当時を彷彿させる臨場感のある絵で、「これが鉛筆画？！！」と、誰もが思うほどの迫力あるものばかり。「スゴイ！！」の一言ですね。

ところで、小泉首相（当時）、八代亜紀さんともお会いしたとか？

坂本さん：小泉首相は、食い入るように絵を見て、「白いエンピツがあるのか？」と聞かれた。それに答えて、「マジックは、白はあってもエンピツにはない、回りを際立たせて紙の色で白を出す」と。八代さんも、「先生の絵を見るのが楽しみです」と言ってくれたと。

MC：坂本さんが、一番、心に残っていることは何ですか？

坂本さん：ロシアのエルミタージュ美術館へ行った時、館長に「なぜエンピツで描くのか？」と聞かれて、「油絵はお金がかかる。お金がないのでエンピツで描くのや」と答えた。それまでは鉛筆画と言えば、線画が中心だった。違う描き方をしたのがよかったかな。

MC：ところで、旧の加古川市立図書館に、坂本さんが寄贈された作品の展示コーナーが来年度にオープンするそうです。それならいつでも身近で見られるようになり、市民

にとっても何より嬉しいことですね。

坂本さん：夢の世界やね。どこに寄贈しようかと思っていた時に加古川市から声を掛けられた。「こんな幸せなことはない」と思った。

MC：最後に、これから始めようとするみなさんへ、アドバイスをお願いします。

坂本さん：誰でも鉛筆画は描ける、簡単に描ける。ただ、奥行きがあるから難しい、そこが苦労する。でも、誰でも描けるから。

MC：坂本さんご自身は、去年、引退をされて教室も閉めたそうです。が、初めは「いよいよ気楽な時間を過ごせるかな」と思っていたところ、引退後も、NHKが収録に來られ放映されたり、また、遠くは東北各県からも訪問に來られたりして、忙しさは相変わらずだそうです。世界でも知られる坂本さんですから、納得しますね。

そこで一言、「初めての作品 妻に褒められ 以後 20 数年 一途に打ち込む」エンピツさえあればと始めた鉛筆画。すぐ傍にいてくれる人のエールは、心のよりどころとなって今に続いているのですね。どうぞ、オープンの日を楽しみに。見てビックリされること間違いなしです。



(ナレーション 松本 良子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



《編集・発行》 いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座・研究生）

☎ 079-424-3342